



境その三

## 布薩堂

かつて、『暁の寺』や『タイの僧院にて』の背表紙を見ただけで心が高揚した記憶は、今も胸の奥に残っています。今回の「秘境」は、そのタイの僧院の中に建つ「布薩堂」の紹介です。

タイの北部、都会から遠く離れた静寂な森の中に建つプラ・プッタパート・タモ（タモ仏足跡寺）にはその名が示すように六つの仏足跡が点在し、神聖な場所として尊



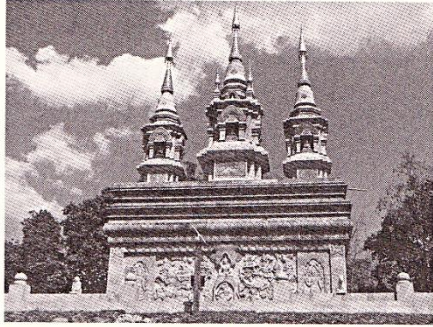
大聖堂内の仏足跡

佐々木 日嘉里

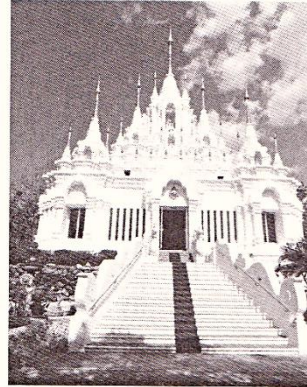
ばれています。修行寺院であるこの寺は、山岳民族カレン族の篤い信仰によって建てられました。カレン族の人々は五年もかけて、山の斜面を崩し、手作業で石と土を運び石垣を積み、土地を造成したのです。このようなお寺の存在自体、タイの布施文化の深みの現れといえます。

布施の方法は様々ですが、布施者は将来大いなる福が自分に返ることを期待し、よりよい世界に生まれ変わることを願っています。布施する相手が、立派で信頼できる人であればこそ、自分に返る果報も大きくなる、と信じているのです。

タモ寺は、律を持ち、真剣に修行に取り組み、少欲知足の生活を送る僧伽<sup>サンガ</sup>です。そのため、多くの人々の信頼を集め、その結果、沢山のお布施がこの寺に集まるのです。仏足跡を覆う大聖堂や瞑想用の講堂など、新しい建物が次々と建つ様に比丘<sup>さま</sup>（僧侶）たちも驚いているほどです。なかには大勢の人たちの少しずつのお布施で、三十年かけて完成した石造



石造仏塔



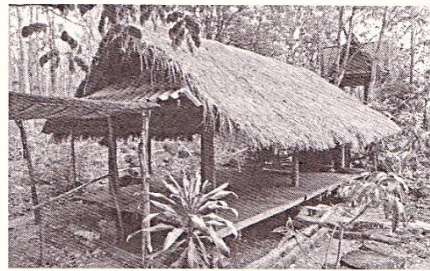
大聖堂 84の尖頭を持つ

の仏塔もあります。

タモ寺が開かれて約百年、様々な人々のお布施でこの僧伽は成り立ってきたわけですが、その大きな理由は、やはり比丘たちの生活全般にわたる誠実さにあります。そして、その根底には律に基づく僧団生活があるのです。そうした生活をしっかりと送っているかを、各比丘が波羅題木叉<sup>はらだいもくしゃ</sup>（パーテイモツカ）の条項に照らして自己確認、自己反省するための儀式を布薩（ウポーサタ）といます。波羅題木叉とは、比丘・比丘尼の行動に関わる規則を並べたもので、罰則の種類ごとにまとめられ、重罪から軽罪の順に書かれています。些細な罪の場合は、「他比丘への報告と謝罪」が罰になり、重罪の場合は、布薩の時には扱われず、別の日に全員で羯磨<sup>こんま</sup>（会議）を開き、罰が決められます。

これらの儀式を行う大切な建物が、布薩堂です。布薩堂は切妻屋根で、小屋組の上に波型スレートが載り、その上に竹で下地が組まれ、ヤーカーと呼ばれる茅萱が葺かれています。茅萱の穂先を下に向ける葺き方は、日本とは逆向きのため、雰囲気や機能が随分異なつたものとなっています。妻側には波型スレートの庇が付き、妻入りの形式をとり、比丘たちはここから板敷きの建物の中に入って行きます。

建物の大きさは、桁行二間（約六メートル）、梁間一間（約三メートル）で、床は十六畳ほどの広さです。屋根を支える丸太の柱はこの山



布薩堂

に自生する木が使われ、レンガ積の基礎の上に建っています。入口の向かい側には、柱に渡した竹に茅萱が掛かる壁があり、それ以外は壁のない吹き放ちとなっています。このように布薩堂は簡素ですが、他の寺院では失われた原初の形を残す、貴重な建物なのです。

布薩は、月に二回、満月と新月の日に行われ、今回訪れたのは満月の日でした。タモ寺の場合、布薩の前日、比丘は剃髪し、ハーブの釜風呂に入り、衣を染め直します。熱湯にジャックフルーツの心材を入れ煮出した中に衣を入れ、洗濯も兼ねて草木染にする、この方法も律に則したものです。身支度を終えた比丘は、瞑想し心を調え翌日に備えます。

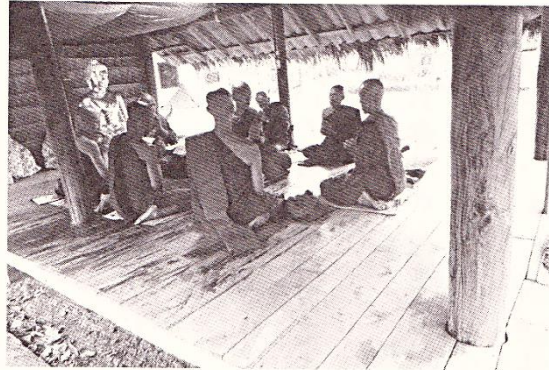
次の日、夕闇が迫り、陽が傾くころ、三々五々比丘たちが布薩堂に集まってきました。止住する比丘全員がこの布薩堂に着座する

と、律の規則を破った人が他の比丘に自分の罪を告げ謝罪しています。些細な罪だったようです。このあと、

一人の比丘が波羅題木又二二七条をパーリ語で

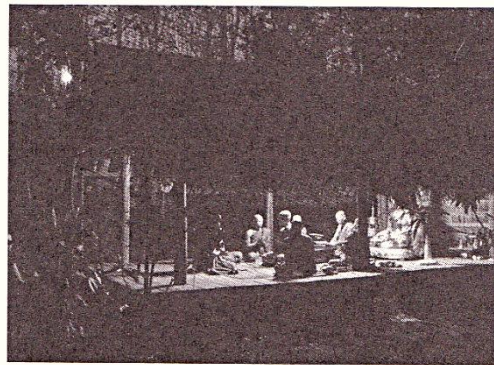
一気に暗誦し始めます。他の比丘は心の中で誦し、律の再確認を行います。

暗誦も終わりに近づく頃、布薩堂の屋根の上に満月が姿を現しました。月明かりの下、読誦や協議など行事は続きます。月が昇って小一時間、終了の言葉をもって布薩の締め括りとなりました。



布薩堂中央に座し、波羅題木又を暗誦する比丘

比丘たちはその後各々の僧坊に戻ると、静かに瞑想に入っていきます。満月が照らす中、布薩の日は静寂の中で終わろうとしています。



布薩堂の屋根にかかる満月

佐々木 日嘉里（ささき ひかり）

一九五八年、福井県生まれ。一九八九年、奈良女子大学大学院人間文化研究科博士課程満期退学。現在、花園大学非常勤講師、佛教大学非常勤講師。季刊『禅文化』229号より「部分から全体へ 寺院建築入門」連載中、同誌232号「特集東西禅師と建仁寺」で「建築者としての栄西」、別冊太陽栄西と臨濟禅（平凡社）で「禅と日本文化」を執筆。「大州黎明の禅寺 如法寺」（愛媛県大洲市）「建築の見どころ」を監修など。